

# 第7回理学部RCセミナー

医と理工を紡ぐ。産官学を紡ぐ。

講演者：東京理科大学先進工学部  
機能デザイン工学科  
医療機器材料開発部門  
教授 曾我 公平



**日時：3/13（金）15:00-16:30**

**場所：理学部講義棟S32**

そもそも研究の道に入ったときは、私はガラスの研究をしていました。ところが2004年に東京理科大学に着任して以来、徐々に生命科学や医療関係者との関係が深まり、現在はバイオメディカルイメージングを中心に研究を進めています。バイオへの道は2005年の生命科学研究者との出会いがきっかけで、その後東京理科大学には、がん医療基盤科学技術研究センターという組織が立ち上がり、国立がんセンター東病院の医師たちとの交流と共同研究が始まったわけです。20年を経た現在私が所属している「先進工学部機能デザイン工学科」は2023年に本学に発足した新しい学科で、「ヒトのカラダを助ける工学」の創出という共通の目標に向かってナノメディスン、認知工学、ロボット工学などの従来の工学の分類では異なる組織に配置されていた研究分野の融合と連携により新たな工学の創出を目指しています。

最初ががんセンターの医師たちとの交流に始まり、現在に至るまで常に直面するのが「言葉の壁」。分野が変わると言葉や文化、考え方が異なり、まるで国際交流です。そんな中、医療に存在する問題を浮き彫りにし文系・理系を問わずあらゆる分野のエキスパートが意見を交わす場として始まったバイオメディカルインターフェースコミュニティの活動は、今年で17年を迎えます。

本講演ではそんななかで見えてきた、異分野交流から共同研究による連携成果創出に至るストーリーを、さまざまな角度からご紹介しつつ、意見を交わせればと考えております。